



# 在宅医療連携だより



## 「危険がいっぱい」

一般社団法人 新発田北蒲原医師会  
副会長 佐々木 亮

記憶に新しいかと存じますが、昨年の12月1日、関越自動車道を逆走した80歳の高齢男性が、74歳の男性が運転する対向車に正面衝突して死亡するという事故がありました。痛ましい事故でしたが、ある種の違和感を覚えました。この老人が逆走するさまを捉えた動画が何度も放送されていましたが、この動画をみる限りでは、逆走した本人は車線変更をすることもなく、自分にとっての「走行車線」をずっと走っていました。当然ながら、この車線は逆走される側にとっては追越車線に相当します。事故は正面衝突でしたので、衝突された車も追越車線を走っていたこととなります。これが違和感の正体でした。道路交通法を無視して追越車線を延々と走行し続けた老人と言語道断の逆送老人との邂逅が齎した事故だったのです。身も蓋もない言い方になりますが、どっちもどっちです。

これほどまでには極端ではありませんが、昼間の街中は高齢者ドライバーによる危険で満ち溢れ、道路交通法無法地帯と化しています。脇道から突然飛び出してくるのは、日常茶飯事。信号も意味をなしていません。堂々と赤信号で通過していきます。出しているウインカーとは真逆の方向に曲がる。何も無いところで突然ブレーキをかけて減速する。路上駐車をしても路肩よりセンターラインの方が近い。数え上げたら切りがありません。おかげで患家に着く頃には性根尽き果てます。

今でこそ高齢者ドライバーを批判する側に立っていますが、数年後にはこちらも無法地帯の構成員の仲間入りをします。自分を含め、当地区の在宅医療の中核を担っている開業医は皆結構な年齢です。このまま開業医の高齢化が進むと、2025年問題は在宅医療を受ける側だけではなく、提供する側にも深刻な影を投げ落とします。こちらが心置きなく免許返上できるよう、在宅医療への若いドクターの積極的な参入を心よりお待ちしております。

## 「ケアマネタイム」閲覧方法についてお知らせ

「ケアマネタイム」は、医療と介護の速やかな情報共有と連携を目的にかかりつけ医との連絡方法や時間帯などについて情報をまとめ一覧にしたもので、“ときネット”にて閲覧できるよう管理してまいりました。今回もっと多くの方に使いやすくするために掲載場所を**新発田地域在宅医療・介護連携推進センターのホームページ**の「在宅医療・介護マップ」のコーナーにも追加掲載させていただきます。これまで通りときネット上でも確認できますので、どちらでもご都合の良い方法でご活用いただきたいと思います。ホームページ アドレスは、以下の通りとなっております。

URL：<https://shibatachiiki-renkei.com> 又は、**新発田地域在宅医療・介護連携推進センター**で検索  
掲載内容の変更やお問い合わせについては、以下へご連絡をお願いいたします。

〈お問い合わせ先〉 一般社団法人 新発田北蒲原医師会

しばた地域医療介護連携センター TEL 0254-20-8577 担当 辻

## 第5回「かえつ地域の在宅医療について考える会」in 胎内9/14のご報告

令和元年9月14日胎内市産業文化会館にて開催し、医療介護関係者60名の参加をいただきました。

メインテーマ「胎内地域の在宅医療における医療介護連携の現状と課題」

会のねらい：各地域における在宅医療提供体制の構築をめざし、医療介護関係者により現状と課題を共有すること。そして次につながる課題解決への足掛かりとする。

パネルディスカッション形式で5名のパネリストからのご発言と全体討議が行われました。

以下にパネリストのご発言や会全体の様子を紙面の許す範囲でお伝えいたします。



【第1席】胎内市はなの医院院長の花野伸一先生より、在宅訪問診療の現状や、特養の囑託医として、初めての経験を手探りでスタートさせた急変時の対応や、看取に関する基準等をスタッフと共有してきたことの紹介。

在宅診療で困った経験として、自院をかかりつけとしていた患者さんではあったが、入院してから経過や情報がわからないまま、ある日突然ショートステイから患者さん急変の連絡が入り、かかりつけ医としての対応を迫られる状況に困惑したことを紹介し、病院と在宅との連携そして“ショートやロングショート”等との連携の在り方に疑問を投げかけた。

【第2席】胎内市ちの泌尿器科・内科医院の千野早苗先生より、～ポックリ逝く前と後～と題して、①老衰の病状は把握していたが経過が早かったため、看取りの準備が不十分だったケース。②予後や急変時の対応について家族、施設スタッフと話し合いはしてきていたが、突然死されたため、明らかな病死と判断がつかかね警察に届け出た症例の紹介。いづれも在宅の方で死亡後に発見された2症例について紹介し医師としても動揺する、予測できない経過をとる症例の対応について考察。死期が近くなった場合はどのような経過をとるか想定し、家族や医療介護従事者に情報提供し共有することが重要であると結ばれました。参加者の声として、在宅で死を迎えることの難しさや、情報共有の大切さ、地域で支える在宅医療としてみんなで考えていく必要があること等の声がありました。

【第3席】訪問看護ステーション中条愛広苑管理者市原様から「胎内地域の医療介護連携の現状と展望」と題してご講演。看取りに関する課題には、①在宅をまかなうサービス施設の不足、②医療依存度の高い方への対応、③慢性的な人材不足（特に看護師）。今後に期待することとして、①スムーズで密な情報交換ができるツールの利用やシステム作り、②相談しやすい関係づくり、③医療依存度の高い方のショートステイでの受け入れなどについて挙げられました。

【第4席】居宅介護支援事業所マチュアハウス中条管理者

の石黒様は、胎内地域のケアマネジャーに実施したアンケートをもとに「医療との連携上の困りごとや課題」について報告。医療との連携は、以前よりうまくいくようになったとは言え、ケアマネジャーには医師への直接連絡に苦手意識があり、「会話がうまくできない」といった声はまだ聞かれているとのこと。“ときネット”の普及がこの地域の課題であり、また「連携シート」や「ケアマネタイム」の活用も望まれるとのことでした。

最近では退院前カンファレンスが多く開催されるようになり、多職種の方と意見や情報の交換ができることは大変有難いと思っていること。今後、医療機関との合同研修会や交流会などを通じて顔の見える関係を土台にもっと密な連携ができるよう、そして利用者さんへのスムーズな支援につなげたいと述べられました。

【第5席】新栄町歯科医院理事長の佐久間利喜先生からは「多職種連携における歯科の役割」と題するご講演で、『かえつ在宅歯科医療連携室』を活用していただきたいとお話。口腔ケアにより誤嚥性肺炎が減少することや、歯周病を予防することで糖尿病患者さんのHbA1cが安定するケースもあることを紹介。認知症患者さんに対する口腔ケアにも問題は多いと思われることから一緒に在宅ケアチームとして参加できればと述べ、在宅歯科連携の認知度を広める努力をしたいと述べられた。

【全体討議】在宅で看取することを「とんでもない」と受け入れられない家族、そのようなケースでは、医師は家族の意向に沿い施設や病院を紹介している。また、在宅ケアチームに訪看が入ることで、うまくご家族の不安に寄り添うことができていること。“ときネット”の活用は、土台に顔の見える関係がある時、より有効なツールとなりえるなどの話ができました。

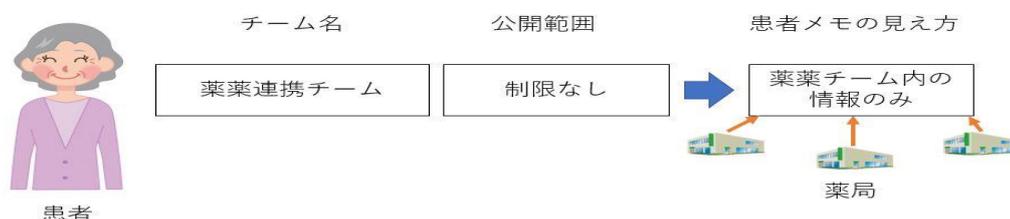
開催後アンケートでは、88%の方が現状について情報共有できたと、また89%の方が今後の活動の参考になったと回答されました。詳しいアンケート結果をご覧になりたい方は、どうぞ“ときネット”の「談話室」をご覧くださいようお願いいたします。

## 地域で共有『薬薬チーム』始めます！

医療機関や介護事業所と処方情報を共有する『薬剤情報共有システム』について、以前ご説明を致しました。今回はこのシステムをより発展させる形で、参加する全ての薬局間にて患者さんの薬剤情報を共有する仕組みがスタートします。これはときネット上の『チーム』機能を用いて、薬剤情報のみを取り扱う薬局専用の『薬薬チーム』を作り、ここに各々の薬局が持つ薬剤情報を公開し合う仕組みです。ときネット上に患者さんの薬剤情報が集約され、地域で共有できる電子手帳へ一歩前進です。既に参加している薬局、また新規に参加している薬局の方々におきましても、同意されている患者さんの薬剤情報を参加したその日からすぐに参照することができる大きな利点です。

令和2年度診療報酬改定に於きまして、かかりつけ薬局の役割について高く評価されています。かかりつけ薬局が担う質の高い薬剤指導にご活用いただけると幸いです。

### 薬薬チーム



薬薬チームは『チーム』タブの『チーム一覧』からご参照頂けるようになります。

## センターからのお知らせ

平成30年4月より医師会にしばた地域医療介護連携センターを立ち上げ、在宅医療・介護連携推進事業（介護保険法・市町村委託事業）と在宅医療推進センター事業（医療介護総合確保推進法・新潟県医師会）のそれぞれを『新発田地域在宅医療・介護連携推進センター』と『かえつ在宅医療推進センター』の2つのセンター名で事業を行なっていました。

これら両事業の内容は重なり合う部分が多く、センターの区別が付きにくいのご意見もあり、令和2年度よりセンター名を『しばた地域医療介護連携センター』の1つにすることと致しました。これまでと変わらず積極的に取り組み、両事業が車の両輪となり在宅医療をより一層推進して参りたいと思います。

一般社団法人新発田北蒲原医師会  
しばた地域医療介護連携センター

新発田地域在宅医療・  
介護連携推進センター

かえつ在宅医療  
推進センター

ご連絡先 『しばた地域医療介護連携センター』

〒957-8577 新発田市本町 4-16-83

TEL : 0254-20-8577 【在宅医療・介護連携推進事業】

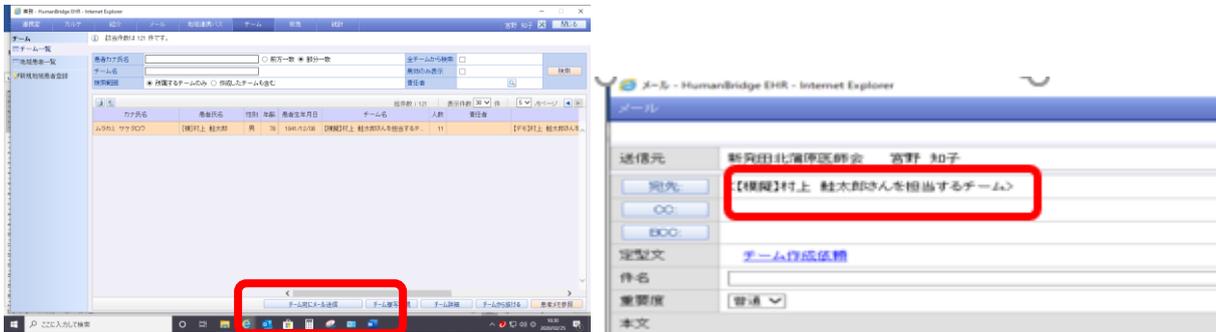
TEL : 0254-28-7914 【在宅医療推進センター事業】  
(ときネット事務局)

## ときネット事務局よりお知らせ

### ときネットの新しい機能を紹介します！

★所属する在宅ケアチームのメンバーへメールを一斉に送信できるようになりました。

チームの画面の一番下に「**チーム宛にメール送信**」のボタンが出来ました。  
クリックすると新規メール作成画面に変わり、宛先にチーム名が入りメンバー全員へメール送信できるようになりました。



★メール機能でチーム作成依頼の定型文が使えるようになりました。

新規メール作成画面の定型文の「**チーム作成依頼**」を選択すると 件名にチーム作成依頼、本文の依頼日には当日が設定され、依頼者にはメール送信者情報が設定されます。あとは必要事項を入力し、送信することで簡単にチームの作成を依頼できるようになりました。



## 編集後記

この冬は、雪が積もることなく春を迎えようとしています。ずっとこの地に生きて、銀色に輝く二王子岳を見ることなく季節が変わっていくのはとても残念です。そして今、新型コロナウイルス感染症の広がりはいまだにない局面を迎え、すべての人々に冷静な判断と対応を迫られています。こんな時も医療、介護現場で活動を続けておられる皆様方の身の安全を祈りつつ、どうかこのまま終息に向かってくれることを願うばかりです。

刊行誌「在宅医療連携だより」第5号を発行いたします。これからもこの地域の医療と介護の現状や歩みをお伝えし、情報共有のお役に立てたら幸いです。ご協力いただいた皆様方に感謝申し上げます。令和2年度は、気持ちも新たにスタートしてまいります。今まで以上に地域行政の方々と協働し、地域医療介護に関する事業を進めてまいります。今後とも事業へのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。(なべ)

## ホームページ「知って得する健康講座」についてお知らせ

当ホームページ「知って得する健康講座」に最新情報『認知症について』掲載いたしました。日頃の皆様の医療介護現場の活動に役立つ内容がちりばめられています。読者からの感想も寄せられ反響も上がってきています。気になる疾患について再度ご自分の知識を整理してみるのはいかがでしょうか。

かえつ在宅医療推進センターホームページアドレス  
<http://www.inet-shibataor/~zaitaku>



《お問い合わせ先》

新発田北蒲原医師会 かえつ在宅医療推進センター 宮野、渡辺  
TEL 0254-28-7914 又は「ときネット」メールにて  
お気軽にお問合せください。

令和2年3月5日発行